

令和4年度 第4回タウンミーティング

のみ社会福祉法人連絡会とのタウンミーティング

日 時 令和4年7月1日（金）19時～21時

会 場 辰口福祉会館 交流ホール

参加人数 30人

1) 開会

2) 市長 市政報告

◎はじめに

・「インクルーシブ能美」という題名でお話をさせていただくが、インクルーシブという言葉は、仲間外れにしない、みんな一緒だという意味です。クアハウスN9という温浴施設の隣に新しい公園を作ったとき、どんな公園にしようかと検討している中で、やはり能美市は地域共生社会を目指している。いろんな方に利用していただけるような公園にしようと「インクルーシブプレイグラウンド能美」という名前の公園を作らせていただいた。

・設置されている滑り台は、3人から4人で滑れるようになって手をつないで滑れる滑り台です。そして小さいお子さんが登っても危なくない滑り台、障がいをお持ちの方でも乗れるブランコ等々もあります。

◎能美市を取り巻く情勢と課題

・人口動態と世帯数です、能美市の人口、ずっと増えてきてはいたが、感染症の影響で、外国人の方が戻って来れないことから最近少し減ってきています。そして世帯人員、核家族化が進んでいて、世帯1人1世帯あたりの人員も減ってきている。高齢者を含む世帯はその反対で増えてきている。高齢化ということもありますし、高齢者のみで暮らす世帯も増えてきているということだと思います。

・そして生活保護人員と世帯数。生活困窮者も最近が増えてきていて、その世帯数も増えてきています。障害者手帳をお持ちの方も増えてきている。これはおそらく能美市に限ったことではなく、日本全国同じような状況であり、地域福祉をどうやって取り組んでいくかということが大変重要になってくる数字です。

・要支援・要介護の認定者数も増えてきていて、高止まりの状況でありこういった状況に対しては、健康作りをどうしていくか最近いろんな取り組みを強化しています。

1人当たりの医療費、これは2020年大きく減りました。新型コロナウイルス感染症の拡大

に伴って医療を受けられる方の人数が減ったというか、お医者さんに行くことを控えた結果ではないかと分析しています。

◎新型コロナウイルス感染症の現状と対策

・新型コロナウイルス感染の状況です。昨年の12月から今年の1月にガラッと変わりました。昨年までは高齢者の感染が多かった、今年に入って若年層の感染が大変多くなってきている。今年に限って言えば、40歳以下の方が全体の約85%を占めている。ワクチンの接種状況は、30歳以下は60%未満という状況で、65歳以上の方々に限ってれば95%以上の方が既に3回目の接種を受けている状況です。4回目の接種は年齢は満60歳以上の方で、3回目の接種をして5ヶ月経過をされた方から、接種をできるということで、能美市では現在対象となる方には接種券の送付を始めております。

◎地域福祉計画について

・第四次の地域福祉計画を作成をさせていただきました。テーマは「みんなで築く福祉の輪」ということで、能美市はSDGsの未来都市でもあり、そのことを踏まえた内容になっています。人作り・地域作り・支援作りという三つの基本方針の中にいろんな施策を盛り込んでいます。

・施策を盛り込んでいくにあたり自助、互助、共助、公助という考え方があり、それぞれのメニューで棲み分けた内容になっております。この人作りはいわゆる互助、地域作りは、共助、支援作りというのは公助という考え方で、盛り込んでいます。

・それぞれの基本方針に対して、数値目標を設定をしており、これをPDCAを回しながら、この地域福祉計画を進めていきます。能美市で地域福祉計画を作り、社協さんで地域福祉活動計画というのを作っていただいています。改定年度は毎年2年間ぐらいつれていたんで今年度、同じ年度に改定をして進むことになりまさに車の両輪ということでもあります。車の両輪というのは先ほど互助・自助というお話をさせていただきましたけども、その考え方の中で、地域福祉計画とは共助や公助のメニュー、社協さんが作られた福祉活動計画は市民お一人お一人だとか地域で取り組むということが盛り込まれた、自助・互助の施策が入ってる。それを車の両輪として一体となって進めていこうというのが今能美市全体の社会福祉に対する考え方および施策であります。

◎市の施策へのデジタル技術の活用について

・デジタル技術の導入を積極的に行い、活用しています。例えば地域共生DXという名前で取り組んでいるのは、認知症の方が行方不明になった場合に、いなくなった方のデータがスマートフォンで見れるようになり、写真ですとか、特徴がスマートフォンで見れ、見つけられる速度が早まっています。

・ウェブ健康手帳というのは、今幼児期の子ども、お母さんのおなかの中にいるときから

18歳までいろんな医療・治療を受けたり、予防接種を受けたり、いろんな薬を飲むんですけども、それが全部一貫通でなく、その都度途絶えてしまっている。デジタルの技術を使って胎児から18歳までの医療データや、どんな薬を飲んだかとか、どんな治療を受けかというのを一貫通で管理できるようにしようとしています。予防接種でも、日程を伝えたり、申請書の記入を簡単にデジタルで登録できるように、というのがウェブ健康手帳です。

- ・いわゆる犯罪を犯された方で更生を目指す方をサポートされている保護司さんがいらっしやいます。新型コロナウイルス感染症が拡大し、対象となる方と、お話をする機会が少なくなった。ウェブでカメラを使って、お話し合いをしてもらおうと、タブレットを貸与することにしました。これまで保護司の方が一対一で相談に乗っていたケースが、タブレットが使えることになって、対象となる方お1人に対して保護司が2・3人で相談をできる体制を整えることができるようになりました。

- ・協働型施設管理では、市内のどこかの道路が陥没してるとか、何か不具合があった場合に電話で、市役所に連絡してもらっていたんですが、電話ではどんな状態であるのかってのを伝えることが難しい。スマートフォンで写真を撮って送信することでどこにどんな不具合があるかわかるようになりました。

- ・危機管理DX、これは防災行政無線の多重化です。防災行政無線、能美市内のご家庭ほとんどにあるんだと思います。ところがその場になかったらどんな内容が流れてきたか聞こえない、聞き取れない。内容がたくさんだと全部把握することができない、今後文字ベース、このスマートフォンに文字でお伝えするようにします。また今流れた内容を固定電話でもう1回確認できるようにもなります。ホームページにも流しますし、屋外のスピーカーで能美市内で人が住んでらっしゃるエリアには全部聞こえるようにするというのを今進めています。

- ・防災減災救急ということで、ドローンを導入しました。どんな自然災害がいつ起こるか分からない。それから火事もある。また救急も最近熱中症等もあって、増えているということで、資機材の充実も図っています。

- ・AI・RPAということで、市役所の手続きをスピード化する、あるいは市役所にお越しにならなくても、スマートフォン等々でやれるようにするというのを進めています。

- ・デジタルの取り組みの中の一番中心、医療介護DXという取り組みであります。冒頭一人暮らしの世帯が増えている、それから高齢者同士で住んでらっしゃる方が増えているというお話をしました。例えば一人暮らしの方は具合が悪くなって、近所の方が救急車よんだとする。救急隊はその救急者の症状、あるいはどんな薬を飲んでたのか、どんな治療を受けていたのか、緊急連絡先はどこだということを把握をして、搬送先の病院に伝えるという大事な任務があるんですけども、一人暮らしなもんですから、伝えられない。

能美市は見守り安心マップということで、民生児童委員さんが年に1回、今申し上げたようなことを1年1回確認してるんですけども、直近の情報はアップデートされてないも

んですから、救急隊に伝えられない。ということもあって、今後はデータをクラウドに登録させておいて、必要なときに必要な情報を得ようという取り組みを始めています。

- ・病院から退院し、家で暮らすようになられた場合には、ケアマネさんがその方の状態を全部確認するんですけども、ほとんどがまだアナログ。紙にペンで書いてるような状況であるものを、全部デジタル化させて共有をしていこう、ケアマネさんもその介護をする前に医療のデータを取れるようにしよう。今度逆に介護を受けた方が病院に戻る場合には、どんな介護を受けたかというようなデータも、病院のお医者さんがわかるようにしましょうということ、必要なデータをデータベースに入れといて、そして必要なときに取り出せるようにしようというのが、この医療介護DXなんです。

- ・このたび内閣府が設けていたデジタル田園都市構想交付金を能美市は石川県で唯一の自治体としていただけることになった。この交付金というのは、医療介護の今申し上げたような分野のことだけじゃなくて、あらゆる分野のデジタル化を進めていくというような交付金でありまして、今後は、医療介護と言いますとどちらかという高齢者の方々が対象になるのかもしれませんが、子育て世代の方々が利便性を感じることにデジタル技術を取り入れよう。あとは将来的には、ドローンで薬を運んだり、生活用品を運んだり、あるいは家にいながら診療が受けられるようなそんな仕組みも作っていこうというのが、この事業です。インクルーシブという名前をつけ、能美スマートインクルーシブシティ、という名前にして、推し進めていこうと始めています。

◎施設整備について

- ・施設整備も、健康福祉センターサンテがだいぶ老朽化をしてきたのでリニューアルをし、増築します。コンセプトは、健康増進エリアと子育てエリアというのをはっきりわかるようにして、利用を促進しようという建物にします。

- ・生活支援ハウス、これまでは高齢者の方々のみ対象にしていた施設なんですけども、生活困窮者の方が社会復帰するまでの間、サポートする、そんなことにも使っていこうと準備しています。

- ・亀齢荘もリニューアルを今計画している。せっかくりニューアルするのならば、インクルーシブにしようということを考えて、高齢者のみならず、お子さんや障害をお持ちの方も利用できるような施設にしたいと思っています。

- ・市内には、15の公立保育園があったが、幼児教育のニーズもあり、福島保育園を民営化させていただき、ふくしまこども園をオープンをさせていただいた。この場所は、能美市が企業誘致を進める福島グランパークの一角にあり、そこには新たに700人の新規雇用が生まれる企業さんが進出をされます。人材を確保するのに、お子さんをこども園に預けて、働けるようなそんなモデルケースにしたいという思いをしております。

- ・健康ロードは、北陸鉄道能美線の線路跡です。桜が植えてあったり、道が整備されているので、ウォーキングロードとして大変多くの市民の皆さんが利用され、通学路としても

利用されています。ただ桜の根っこが隆起していたり、昔駅があった場所もわからないような状態になっているので、健康増進、健康寿命を延ばすために、整備していきたいと思っています。全長 16 キロあるため、能美線が走り出して、100 年、廃線になって 45 年、能美市政誕生 20 周年とこの三つが重なる 2025 年、3 年かけてここを整備をして、健康増進のいわゆる聖地にしていこうと今予定しています。

◎安全・安心のまちづくりについて

- ・今能美市では避難計画を作る上でのサポートをさせていただいたり、避難訓練をされる場合もいろいろと相談に乗るようなそんな体制の整備をしています。
- ・合葬墓を作りました。市民の皆様方からそういった要望がありまして、墓は当然自分で守らなくちゃならないけれども、仕事の都合でなかなか戻ってこれないということ等があって、この度作らせていただきました。場所は、遠方からの利便性が良い、能美市の南西側北陸自動車道のインターチェンジにも近い空港からも近い駅からも近い山口町に作らせていただきました。
- ・SDGs 未来都市ということで今パートナーシップ制度を設けさせていただいて、機運を盛り上げて市民の皆様方と一緒にやっけていこうとしています。
- ・買い物に行けない、とか病院に行けないというような方を移送する方、子供食堂を運営されている方、また外国人をサポートされている方、この三つの分野でいろいろと取り組みをされる方に対して、若干の助成をしようというのが地域力強化支援ファンドです。
- ・共生のまち作り促進検討委員会は、能美市が目指す地域共生社会をさらに進めていくためにはどんなところが足りない、どんな部分をもっと強化すればいい、というようなことを有識者・学識者の方に集まっていたいただいて、検討をしていただこうという会です。
- ・地域福祉委員会、これは町会長さん町内会長さんそれから民生委員さん児童委員さん、地域福祉委員さんというこの 3 名の方が集って、それぞれの住むエリアの福祉をどう向上させていけばいいかということを一生涯懸命考えて、取り組んでいっていただいているのが、この委員会です。能美市には 74 の町会町内会があり、地域福祉委員会は 91、人口が多いところは一つじゃカバーできないということで複数で今取り組んでいっていただいています。
- ・敬老会は、今まで旧 3 町が合併したということで、3 町ごとに根上寺井辰口でやっていましたが、年々敬老会に参加される高齢者の方が少なくなってきた。さらに感染症の拡大によって、なかなか人が集まれないということを受けて、もっとエリアを狭めて、近所でやってもらうことで、参加人数を増やそうじゃないかと、74 の町会町内会ごとに変えて、昨年度から取り組みました。おかげさまで、参加者の方が大きく伸びまして、感染症の中でありながらしっかりと安全対策をとってやってきて大変喜んでいただいています。
- ・フードドライブ・フードバンクも社会福祉協議会を中心にいろいろと取り組みをやっていただいています。未来の福祉人材スカウト事業というのは、やはり福祉に携わりたいという方がなかなか集まらないということから、学生さんに福祉の仕事ってどんな仕事なの、

というようなことをわかっていただけるような、生きがいとして福祉に携わってみたいというふうに思えるようにそんなイベントをやっています。

◎シティプロモーションについて

・能美市大図鑑というのは、能美市のいろんな魅力をホームページで紹介しています。例えば能美市のおいしいお店、それからもの作りの会社、こんな人が住んでいますよとか、こんな観光地がありますよ、こんな楽しいところがありますよ、いろんなものを詰め込んでいるのが能美市大図鑑です。その中の一つに、現場ヒーローズという、能美市の企業で働いている人に映像で登場してもらって、自分がこんな仕事をしてるんだ、一緒にやりませんか、それから、もしよかったらこんな仕事があるんだけど、いや何か仲間を増やしませんかという、ために作ったページもあります。

その一部を見ていただければと思います。

～現場ヒーローズ動画～

こういう動画を今何本も作って、例えばあの成人式でも流したり、「ようこそ先輩」みたいな形で後輩たちにメッセージを送る、そして観た後輩たちが故郷に帰ってみたいとか、あの方と一緒に働いてみたいと思うようにも作ったりしています。今日はたくさんある内の中で2法人のビデオを流させていただきました。自分のところで働いてらっしゃる方も取り上げてもらいたいなと思っていらっしゃれば、おっしゃっていただければと思います。

◎産業振興

・最近障害をお持ちの方の仕事がなかなか減ってきているということもあり、障害をお持ちの方を雇入れますという企業さんに対して支援をするメニューも揃えています。相談体制の整備で、最近いろんな課題や悩みをお持ちの方が増えている。お1人だけでもいろんな悩みを持つんですけども、そうではなくて、一緒に住んでらっしゃる方のいろんな悩みを複合させているというのが最近増えてきています。そういったことに対して、現在はそれぞれの専門の人たちが、それぞれに相談を受けて、スタッフがワンチームがあって、対応を協議しながら、全体でサポートしていくという体制を今整備しています。これまでは1対1、それから一つの悩みに対して1ということだったんですけども、複合的にご相談に乗り、ケアをしていくというような体制を今、整備をしています。

・災害時にも、自然災害がいつ起こるかわからない。それから、今新型コロナウイルス感染症がまだ落ち着いてない時期だということから、それぞれの要支援者の方の状態を把握をして、今通ってらっしゃる、あるいは滞在をされている施設が避難の対象になった場合に、どこへ逃げていただくか、どこで対応していただくかについて一人一人、避難

計画を作っていこうと今始めようとしています。

・百万石文化祭は来年本番です。これは国民文化祭と、障害者・芸術祭文化祭が一緒になったものです。石川県ではいしかわ百万石文化祭という名称で今やろうとしています。能美市では12の事業を今計画をしており、その中で障がいをお持ちの方に関しては二つの事業を今計画しています。

一つは手話ダンスパフォーマンスということでこれ3年ぐらい前に福井で一度披露させていただいたと思います、それから障害者のアート展ということは今準備をしています。2023年10月が本番ですが、今年はプレイベントという位置づけで、今年度はこの手話パフォーマンスに関しては、練習を開始しましょう。それからアート展に関しては、作品の募集要項を今作っていこうと今計画をしています。

◎最後に

・今年のゴールデンウィーク、3年ぶりに九谷茶碗まつりが開催され、本当にたくさんの方がお越しになりました。いしかわ動物園でのみバスを走らせて、当日無料だったんですが、乗りきれない方がいて急遽臨時便を出したぐらい賑わいました。私能美市寺井町に住んでるんですけど、3年ぶりに運動会を行ったら、本当にたくさんの方が来られました。

・ずっと巢ごもりばかりしていた。それから自粛生活が続いていた。ブレーキばかり踏んでいるんじゃないかと、少しブレーキ緩めてアクセルを踏んで、少しのびのびしたいなというようにお声が多くなってきたことを受けて、少しずつ少しずつ始めています。

・これまでタウンミーティングをやらせていただいて、市のいろんな施策や事業をお伝えし、そして市民の皆様方から直接要望を聞いていました。やはり新型コロナウイルス感染症の状況から、開催する回数が減ってきたこともあって、少人数でゆっくりいろんな話をしようということで、市長と能美市カフエトークを今年から始めさせていただきました。私も本当に皆さんがどんな仕事でご苦労されているのか、それから働いてらっしゃる方はどんなことを悩んでらっしゃるのかということも直接お聞きするような機会がいただければと思っています。お話してみたいことがあればおっしゃっていただければ、いつでもいきますので、お申し出をいただければと思います。

・ねずみくんのチョッキ展というのはですね、ここ福祉会館でやります。小中学校の卒業生が新型コロナウイルスの影響で思い出が少ないんですね。特に小さい子が楽しい思い出が少なかったということで、子育て世代の方々にも、今年はこんなことがあって楽しかったなと思っていただけるような機会にもなればということで考えています。

3) 質疑応答

◎質問1

【参加者】

医療介護DXがある程度作られた後は、大切な情報を管理する情報センターみたいなもの

が必要になってくるかなと思うんですね。そこにはある程度の建物とか人員が必要だと思うんですけども、健康センターの敷地の中、隣に古い医師会館っていう建物もありまして、敷地の中で情報センターみたいなものを作っていただければありがたいかなと。どうなのかお話いただければありがたい。

【市長】

個人情報はどう保護していくか、今のところまだ新しいデータセンターのようなものを作るという構想まではいってませんが、どんなものを作っていくか、そしてそのデータベースを作っていくにあたって、どんなベンダーを選んでいくのかを、まず精査しながら、取り組んでいって、おっしゃるようなものが将来的に必要なということであれば、考えていかなくちやならないと思います。

おそらく相当の電力が必要だということ、セキュリティーのことも考えなくちやならないと、果たして町の中心である必要があるかという思いもありますので、まだそこまで頭の中には及んでませんが、将来的には考えていかなくちやならないと思います。

◎質問 2

【参加者】

認知症のことですけども、今日たまたまお昼にあるドクターとお話したんですけども、若年性の認知症の方なんかは診断した途端に、引きこもってしまう。まだ健康で動けるんだけども、職場に行かなくなったりしてしまう。そういうことがないように、やっぱり地域も考えてほしいなど。健康なときは、それなりにやれる環境作りとか必要なんじゃないか、と話したんです。そういった安心できるまち作りができたらいいいねと、ぜひ能美市においても、安心して住めるまち、子どもから老人、それから病気になった人も全てがそうできるまち作り、憩いの場とか、居場所作りとか、私らも力になっていきたいと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

【市長】

デジタル技術ということを声高に言いましたけれども、あくまでデジタルはツールであって、補完する材料でしかないのだと思っています。地域福祉委員会がありましたけれどもやはりちょっと具合が悪い人がいたり、気になる人がいたら声掛けしましょうよ。ということですね、社会福祉協議会のスタッフの皆様方も何回も何回も参加された方々にお伝えされていて、まさにやっぱり人だと思うんです。そんな人をいかにしてたくさん、なんて言うんでしょうかね、作るっていうことなんでしょうね。一緒になってやっている人を集めていくということが大事なんだろうと思いますし、気が付くというか、おせっかいでも声掛けしていくことが大事なんじゃないかという思いをしていますので、ぜひ皆様方にもご協力いただければと思います。

◎質問3

【参加者】

災害のとき例えば福祉避難所もそうなんですけど、洪水起こったときに、逃げられる場所って砂丘と丘陵地しかないんです。手取川も昭和9年には溢れてます。同じようなことがもし起こったときにどうなるのか、具体的に能美市の地形を考えた災害が心配になっていきます。梯川も溢れると、計画では能美市側に溢れさせる話ですから、ダブルで水が流れてくることになりますので、これから検討していただければと思いました。

インクルーシブ公園はすごく気に入ってしまして、市内の他にも作る予定はあるんでしょうか。

【市長】

避難所ですが、市が持っているハザードマップは1000年に一度の大雨が降ったときにどの場所にどれだけの水が来るか作ってあります。対象となられる方が全部避難所に避難できるよう、少しずつ整備をしていかないといけないという思いをしています。その一方で本当にどれぐらいの被害があるかも実態を見ながら整備をしていく必要もあると思います。

市民五万人全員がどこかで避難できるということではないでしょう。実際にどんな被害があるかということ、精度を高めていくということです。その中で避難所の数は増やしてしまして、例えば物見山体育館・寺井体育館は既に冷暖房完備しました。根上の体育館も今冷暖房を付ける準備をしていて、避難所の拡充は常にやっています。

インクルーシブパークが増えるかなんですけど、利用状況を見ながらですね、考えていきたいなと思います。ちょっと話は離れるかもしれませんが、市民の皆様方から要望が多いのは屋内でああいった大規模の遊具があるところが欲しいという声がありまして、悩みどころです。他にも老朽化した施設等があるので、全体を見ながら、どんな施設を優先させていけばいいのか考えながら、ご要望にお答えをしていきたいと思っています。

4) 閉会